初級ドイツ語クラスにおける中間口頭試験
——効果的な反復練習の場——

大　塚　　譲

0. はじめに

本稿では，大学に設置された外国語としてのドイツ語 (Deutsch als Fremdsprache＝DaF) の初級クラス（第１学年）において，学習年度の途中に行われる口頭試験の意義と実施プロセスについて，筆者が最近行った二つの具体例を手がかりに所見を述べてみたい。

先ずカリキュラムとの関係において中間試験[1] の意義を確認しておきたい。Albers/Bolton (1995) は，DaF の授業のカリキュラムが含むべき４つの要素として，① 授業開始時における学習者の知識・能力の水準，② 授業の諸目標，③ 目標達成のための教授法上の学習方略，④ 学習者が目標を達成したか否かを検査する学習管理法，を挙げ[2]，これらに対応する試験として A) 水準分け〈① に対応〉，B) 学習進度測定〈②③④に対応〉，C) 達成水準測定〈①④に対応〉の３種類を示している[3]。この論理に従えば，授業ないしコースの最初にレベル別クラス編成をするために行われるのが水準分け試験であり，授業ないしコースの最後に当初設定されていた最終目標が達成されたか否かを測定するのが達成水準測定試験（日本では期末試験とも後期試験とも言う。本稿では以後「期末試験」という用語を用いる）であり，学習期間の途中で学習進度を測定するために行われる試験，すなわちその時点までの目標の達成度とそこに適用された教授法の妥当性とを点検するために行われるのが中間試験（本稿では「中間試験」という語を主に学習開始半年後の定期試験の意味で用いる）ということになる。日本の大学に設置されている DaF 授業の目標は様々であろうが，期末試験と中間試験について

はほぼこのような概念規定が当てはまるのではないだろうか。

筆者は1年にかなり多くの試験を行う。中間試験と期末試験という大きな定期試験のほかに教科書の章毎の試験と難解な文法項目についての小テストなどを行う。定期試験では筆記試験と口頭試験を必ず行う。筆記試験では文法，語彙，読解，独作文，聴解（いつもではないが）の問題を課す。ここでの問題は，いつも苦慮している問題，つまり4月に学習を始めたばかりの1年生に対して中間試験で口頭試験を課すことの意義をめぐっている。そして結論的に言えば，当該DaF授業の目標がコミュニケーション能力（言語行動能力）の習得に置かれている場合でも，いきなり本来の口頭試験[4]を行うのではなく，話す能力は「先ず徐々に築き上げられなければならない能力」[5]であるから，むしろこの段階ではモデルを模放し力を蓄積するべきではないかと考える。その意味において，試験問題も，授業で教わったことの「再生に限定され」[6]たもの，「授業のその時点までに学んだ言語手段が使える課題」[7]でなければならない。例えば「授業で扱われたダイアローグを模倣して演じること」[8]などは「全くもってぴったりのテスト課題」[9]なのである。

これをもう一歩進めて言えば，1年生に対する中間試験での口頭試験は，「学習進度を測定する」というよりは，むしろそれまでに学習した知識・技能が準備から試験までの一連のプロセスを通して再活性化され，より深い定着に至る場，と捉えられるべきなのである。それまでに学習した語彙・文法・ランデスクンデ・コミュニケーション場面などを，集中的・効果的に復習する機会と捉えるべきなのである。とりわけその際使用するシチュエーションを若干変更し，また練習の条件を若干変更するならば，「学習項目を別のコンテクストで応用して使用」[10]することになり，それの長期記憶化にもむすびつくであろう。

この既習事項の集中的応用的反復練習と捉えられた口頭試験は，準備から実施まで計画され組織された試験でなければならない。従ってその成否は教師の側の組織化の如何に掛かっているといっても過言ではないだろう。

このような観点に立って，夏休み前の前期試験において，1年生に対して2種類の口頭試験を行った。それぞれかなり内容の異なる試験なので，初学者に対する集中反復練習としての中間口頭試験のヴァリエーションを示す意味で2

つともここにご紹介したい。

筆者の勤務校は国立大学では唯一の商科系単科大学で，戦前から外国語教育に力を入れてきた。共通科目としての外国語科目の現在の教育体制について言えば，7 語種の内 2 語種を選択必修し，I では各語種を 4 単位ずつ合計 8 単位，II では傾斜履修して一方の語種を 4 単位，他方の語種を 2 単位合わせて 6 単位，I・II 合計 14 単位を取得しなければならない（昨年までは I・II 合計 20 単位だった）。各学年に 1 つずつ（都合 4 つ）語種毎に選択科目として応用外国語科目（通年 4 単位）が設置され，また一定語種のゼミナール（3 ～ 4 年次 12 単位）を履修することもできる。筆者も毎年数名のゼミ生を持っている。これらの学生は通常夏の短期語学留学や 1 年間の交換留学（バイロイト大学とウィーン経済大学）に強い関心を持ち，また各種検定試験やスピーチコンテスト等にもチャレンジしている。

ここで紹介する 2 つの口頭試験とは，「ドイツ語 I」（必修）と「外国語コミュニケーション（ドイツ語）」（新設された 1 年次配当の選択科目）について夏休み前の前期定期試験に行ったものである。この 2 つの科目は，いわば基本科目と応用科目のような相関性が期待される。週 2 回の「ドイツ語 I」では飽きたらずもっとドイツ語を学びたい学生が「外国語コミュニケーション（ドイツ語）」を履修し，後者では前者の文法の進度に合わせて多様な応用練習が行われる。[ただし予想外だったのは，2 年生以上の参加者が全体の 3 分の 1 を占めたことである。これは彼らの履修上の都合と復習意欲を示していようが，グループワークで彼らと 1 年生との協力関係が生まれたことは実に喜ばしい。]

この 2 つの試験の第一課題はいずれも「自己紹介」である。それが言語によるコミュニケーションの基本であり，知識・技能の基礎的集約の場にもなると考えるからである。第二の課題は全く別個である。「ドイツ語 I」では教科書で扱われたテーマのうちでも特に重要な 3 つのテーマをえらんでそれに関連する 3 つのシチュエーションを新たに書き下ろし覚えさせた。他方「外国語コミュニケーション」では既習練習問題のうちでも特に重要な 6 つのゲーム風練習問題を選び，試験ではそれらのうちの 1 つを実演することを課題とした。試験の様子は正確な「評価」のために必ずビデオに収録した。以下これら 2 つの口頭試験を「試験の形態」「試験の内容と狙い」「試験の準備」「試験の実施」「試験

の評価」「今後の課題」という6つの共通の指標に沿ってご紹介する。

1. ドイツ語 I

1.1. 試験の形態

3 ～ 4 人から成るグループ毎の試験とした。その第一の理由は時間短縮のためである。1 グループの所要時間を 10 分とすれば小さいクラスでは試験時間(80 分) 内に収まるし，大きめのクラスでも若干延長すれば足りる。第二にグループのメンバーの相互協力によって試験準備が一層促進されることを期待したからである。

グループの分け方は，大まかに言って ① 気に入った者同士によるグループ編成，② アトランダムなグループ編成（例えば4 人グループを 8 つ作るとすれば順に 1 から 8 まで言わせて同じ数の者が 1 つのグループを構成する。これを男女別々に行えば男女混合型のグループ編成ができる。）の 2 つの方法が考えられる。① のメリットは，どのグループにもそれなりの活気が生じうることである。交友関係が定まった 2 年目のクラスなどに適する。② のメリットは，クラスのメンバーの関係を攪拌し新たな結びつきを生み出すことができる点である。しかしメンバーの組み合わせ次第でグループの活気に著しい差異が生じる嫌いがないではない。

このクラスは新 1 年生のみから構成されているので ②の方法でグループ編成を行った。

1.2. 試験の内容と狙い

1.2.1. 内容

1.2.1.1. 自己紹介

個人単位で 1 分～ 1 分 30 秒の間に行う。

1.2.1.2. 3 つのシチュエーションのうちの 1 つを演じる

教科書[11] で取り上げられた様々なシチュエーションの内，「家族」，「約束」，「WG（Wohngemeinschaft＝住居共同体）への引っ越し」という 3 シチュエーションを選定し，教師が新たにそれをめぐる小テキストを書き下ろした[12]。学生は

くじで引き当てた1つのシチュエーションをグループで即座に演じなければならない。キーワードメモ[13]は見ても構わない。

このキーワードメモは，本来は文意を構成する語句を（自明のものを除いて）不定詞句の形で提示するものだが，今回は初学者への負担を考えて多くの動詞はすでに人称変化させてしかも前方に置いた。

1.2.2. 狙い

① 簡単な自己紹介，② 語彙：家族，余暇活動，家具，③ 文法：話法の助動詞，従属の接続詞と副文の構造，3・4格支配の前置詞，④ ランデスクンデ：Wohngemeinschaft

1.3. 試験の準備

学期当初から口頭試験については知らせておいたが，試験の2週間前に改めて実施の予告をし，併せて試験内容と必要な準備について説明した。そして早速グループ分けをし，自己紹介のヒント集[14]，3つのシチュエーションの小テキストとキーワードメモを配布して準備作業を開始した。試験期間までの4回の授業の内，それぞれ授業時間の3分の1ほどを口頭試験の準備に利用することにした。自己紹介文は授業の中で作成の要領を教えた上自宅で完成させ提出させた。直ちに添削して返却し，学生たちはそれを覚えた。3つのシチュエーションについてのグループ練習は次のように進められた。

まず4名から成る男女混合型のグループを8つ編成し，クラス全員に対して3つのシチュエーションについて解説し全員で発音練習をした後，早速グループ毎の作業に取りかかった。キーワードメモさえあれば小テキストが即座に言えることを最低限の目標とし，本番でも書き込みのないキーワードメモの使用は認めるが，それを見ないで話す方がはるかに高く評価されることも周知徹底した。

尚，各グループには大塚吹き込みのテープが配布された。

1.4. 試験の実施

テスト開始時間はグループ毎に事前に指定される。その時間まで最寄りに用

意された控え室で最後の仕上げを行う。

先ずグループの各メンバーが順番に1分～1分30秒の間に何も見ずに自己紹介を行う。あがり易い者や準備不足の者などが行き詰まった場合には若干助け船を出すが，2分を越えればストップをかける。

次にくじ引きで3つのシチュエーションから1つを選び，グループで即座に演じる。キーワードメモを全く見ない者，ちらちら見る者，終始見ている者などやり方はさまざまだが，いずれにしてもほぼ全員正しい文が言えた。

学生たちはかなり緊張しているので，雰囲気を和らげる気配りが大切である。最初と最後にグループ全員に対してドイツ語で挨拶するだけでも空気はがらりと変わる。特にトップバッターの学生たちには，他の学生たち以上に配慮する必要があろう。また筆者は必ずビデオ撮影をするが，最初にそれが単に評価に正確を期すためであることを伝えておくことにしている。

1.5. 試験の評価

個々の学生について「自己紹介」の部と「シチュエーション演技」の部を別々に評価し，最後に2部門の平均を最終評価とした。グループ単位の評価はしない。

評価項目とその骨子は以下の通りである。

●自己紹介の部：「発音」「内容」「感情」「文法」

①「発音」：あまり支（つか）えずに，概ねドイツ語らしい抑揚でドイツ語らしい発音をしているかどうかをチェックする。特に und, sagt, wie, mag などの子音。

②「内容」：特に兄弟，趣味，週末や夏休みの予定などについての表現には，個々の事情や意向がある程度明確に反映されていてしかるべきである。

③「感情」：率直な感情表現への志向があるか否かを見る。

④「文法」：「覚えてきたことを話す」テストであり，しかも文法的課題もあらかじめ周知しているわけだから「文法」も評価項目になりうる。「名詞・代名詞の格変化や動詞の人称変化に対する意識があるか否か」は到達度を示す1つの指標である。(Spontanität が尊重される本来の口頭試験の揚合には「文法」の扱い方

も自ずから異なって来よう。)

●シチュエーションの部：「発音」「感情」「文法」

①「発音」：自己紹介の部に同じ。

②「感情」：小さなシチュエーションの中の短い出番とは言え，自然な感情の発露を求めることは可能であろう。

③「文法」：自己紹介の部に同じ。

表 1 — ドイツ語 I 口頭試験評価表（部分）

		自　己　紹　介					シチュエーション				最終平均
番号	氏　名	発音	内容	感情	文法	平均	発音	感情	文法	平均	
	Gruppe 1										

さて，こうした評価項目に対する評価基準と評点については，今回は後々の換算の必要を考えて，ドイツの 5 段階評価を点数だけ逆転させて借用することにした。つまり〈優，良，可の上，可の下，不可〉の 5 段階に分け，上から 5 点～1 点の配点としたわけである。

表 2 — 口頭試験評点

評点	5	4	3	2	1
評価	sehr gut 優	gut 良	befriedigend 可の上	ausreichend 可の下	mangelhaft / ungenügend 不可

確かに口頭試験の評価は主観性を免れることは難しく[15]，筆記試験のように明確に数値化された結果を求めることは容易ではない。しかしその場で評価し，さらに後からビデオで再確認すれば概ね正確な評価を行うことは可能であると

思われる。例えば人称変化や格変化等を正確に聞き分ける場合や，声の小さい学生を評価する場合などには，ビデオは大きな威力を発揮してくれるのである。

このようにビデオ撮影が口頭テストの一連のプロセスの不可欠な部分を成す以上，技術的なミスを避ける細心の注意が求められる。間違いなく全員の顔が写り，声が録音される必要があるからである。

1.6. 今後の課題

全体として「自己紹介」の部と「シチュエーション演技」の部を比較すると，前者の発音の悪さが目立つ。また躓いて時間超過となる者もかなりあった。自己紹介文の添削は行つたが，リハーサルを行うなど事前の個別的な発音指導をセットしなかった。そのためか，話す文は正しいが我流の発音が混入しているケースが少なくない。「シチュエーション演技」の課題については大塚吹き込みのカセットを各グループに渡してあったためか一応の水準に達しており，これと際だった対照を示している。次回は昼休みを活用するなど時間をやりくりしてリハーサルを行う必要がある。そうすれば時間超過も解消し発音もレベルアップしその分長期記憶化も進むだろう。

2. 外国語コミュニケーション

2.1. 試験の形態

「ドイツ語 I」同様，3 ～ 4 人から成るグループ毎の試験とした。グループ数は 8。グループ編成法は，1 年生をアトランダムに均等な人数に分けた後，2 年生以上を各グループに均等に，若干相性なども思い描きながら振り分けるやり方を採った。つまり 1.1. で述べた②の方法に若干の調整（2 年生以上の意図的配置）を加味したわけである。このような編成法を採ったのは，1 年生が大半とは言え，選択科目なので所属する必修クラスもまちまちである上，半年履修の者もいれば通年履修の者もおり，おまけに 3 分の 1 は 2 年生以上である，という具合に顔ぶれがとても雑多であったことと，1 年生と 2 年生以上では学力に開きがあるから，各グループに 2 年生以上の学生を均等に配してリーダーの役割

を務めてもらいたかったのである。どのグループもほぼ狙い通りに機能したようである。

2.2. 試験の内容と狙い

2.2.1. 内容

2.2.1.1. 自己紹介

このクラスでは自己紹介のやり方としてメンバー同士でリレー式に質問し合う方式（リレーインタビュー方式）を取った[16]。

2.2.1.2. ゲーム風練習を演じる

授業で扱ったゲーム風の練習問題の内，6 つの特に重要な練習問題を即座に実演する課題を課した。すなわち 6 本のくじから引き当てた練習問題を即座にグループで演ずるのである［実施方法は問題毎に指示がある］。すでに授業で扱った練習とはいえ，それぞれの課題が大きなものである（どれも概ね 1 回分の授業ないしは 0.5 回分の授業を必要とすると思われる）だけに，どれが当たったにしても，書き込みのない教材を手に即座にすらすら演じるのは，それほど簡単なことではない。グループ単位での事前の十分な練習を必要とする。6 つのゲーム風の重要練習問題とは次の通りである：① レストランでの揚面を指定された条件に基づいて演じる[17]。② warum－weil の問答を指定の Redemittel を用いて行う[18]。③ wenn 文章を駆使する問答を指定の Redemittel を用いて行う[19]。④ 指示に従って好きな食べ物・飲み物，嫌いな食べ物・飲み物を言い合う。リレーインタビュー方式を採る[20]。⑤ 誕生日に家族の内の二人にプレゼントする物について決まった言い回しで問答を行う。リレーインタビュー方式[21]。⑥ 間違い電話の会話を順番に行う[22]。

2.2.2. 狙い

① 簡単な自己紹介，② 語彙：食料品，料理・飲み物の名前，二桁の数詞，プレゼントになる物の名前，③ 文法：名詞の性と冠詞類の変化，不規則動詞の現在人称変化，従属の接続詞と副文の構造，人の 3 格＝与格，話法の助動詞若干，④ ランデスクンデ：レストラン，間違い電話

2.3. 試験の準備

自己紹介の仕方をリレーインタビュー方式としたが，そのことでインタビューの進め方もそこで使用する Redemittel もお互いに話し合って決めることになったのは思わぬ副産物であった。レベルの違う者同士の助け合いがよく機能していた。グループ編成についても 3 名の 1 年生に 1 名の 2 ～ 4 年生を配するようにしたのが奏功したように思われる。後半部のゲーム風の重要練習問題についても集中的によい復習をしていたように見受けられた。自由参加の補講を 1 回行ったが，ほぼ全てのグループが集まって練習に精を出していた。

2.4. 試験の実施

この日最後の時間で延長可能ということも手伝って，あまり時間を気にせずリラックスした雰囲気で，場合によってはその場で問題点を指摘するといった，授業の延長のような和やかな試験になった。笑いが絶えない試験というのも珍しいことである。

1 グループ当たりの所要時間は，リレーインタビュー式の自己紹介に 5 ～ 6 分，ゲーム風練習問題の実演に約 10 分，合わせて 15 分である。全部で 8 グループだから $15 \times 8 = 120$，つまり 2 時間かかったことになる。

2.5 試験の評価

評価の方法はドイツ語 I の場合と全く同じであるが，評価の結果には若干の相違があった。それは，前半の自己紹介のやり方としてリレーインタビュー方式を採ったためか，あるいは紹介項目を指定したためか，内容が均質化してしまい差異が判別しにくくなったからである。せいぜい将来の夢に若干個性が表れていた程度であった。しかしその反面では発音と文法の達成度の差異は判然としていたし，感情面も特に自信の有無を伴いながら比較的はっきりと表れていたように思われる。後半のゲーム風練習問題の実演では，勉強したかどうかがはっきりと表れて評価し易かった。

2.6. 今後の課題

試験当日の最終時間のため時間延長がたやすく，終始リラックスした良い雰囲気であった反面，逆に時間管理がルーズになった嫌いがある。80 分で実施することも十分可能であったろう。むしろ熱心な学生から成るクラスであるからこそ，十分準備練習も積んでいるので，もっと速いテンポで進めることもできたであろう。つまり ① 自己紹介に 1 人 1 分 4 人で 4 分，② 第 2 課題遂行をテンポよくすれば 8 分，合わせて 1 グループの全所要時間を 10 分にすることも十分可能だったであろう。そのためには特に 1 年生が躓きやすい事項についてもっと事前準備を徹底しておくこと，それと多様なゲーム風の練習をその都度テンポよく導いて行く教師の側の優れた手腕が必要であろう。

3. 結び

以上が筆者が最近大学 1 年生の中間試験で行った 2 つの口頭試験の紹介である。しかし最初にも述べた通り，これは本来の意味での口頭試験ではない。言ってみれば口頭練習を通しての語集・文法・ランデスクンデ・ダイアローグの集中的習得の試みといったところだろう。本来の口頭試験の実施が期末試験の課題である。では本来の口頭試験とは何か？

Bolton によると，当該試験が「目標能力」 (Zielfertigkeit) として「話す能力」(Fertigkeit Sprechen/Sprechfertigkeit) を測定しようとするのが「口頭試験」(Mündliche Prüfung) であり，「話す能力」が「仲介能力」 (Mittlerfertigkeit) に留まれば，それは「口頭試験」ではないのである[23]。本来の「口頭試験」にあっては，一般に，一定のシミュレーション的状況の下で問題解決に向けて適正な言語行動を取ることが求められる。例えば，ドイツ語圏の人に道順を教えたり週末の約束をするとか，自分あるいは他人の 1 日の経過を叙述するといったタイプの試験である。

大事なことは，常日頃の授業において，今どの技能・能力を Zielfertigkeit として練習しているか，そしてどの技能・能力が Mittlerfertigkeit としてそれを支えているかについて十分に意識的であることだろう。そして特に「話す能力」

(Fertigkeit Sprechen/Sprechfertigkeit) については，これを Zielfertigkeit として練習を積み重ねて行かなければ，コミュニケーション能力（言語行動能力）を育成することはできないだろうし，「口頭試験」を行う必然性もないだろう。また他の Fertigkeit が Zielfertigkeit になっている場合にも，Sprechfertigkeit は Mittlerfertigkeit として音声面から当該「能力」の習得を促進し長期記憶化に寄与するだろう。

注

1） Albers / Bolton (1995) によれば，「試験」(Prüfung) と「テスト」 (Test) の違いは，公的な基準に基づくか否か，そしてその結果が公的認定の対象になるか否かにより，公的なものを「試験」，それ以外を「テスト」と呼ぶのが通例のようである (S.15) が，日本の大学における DaF のコースにはまだその点についてのルールが確立していないので，本稿では「試験」という名称で統一する。Hans-Georg Albers und Sibylle Bolton: Testen und Prüfungen in der Grundstufe, Fernstudieneinheiten 7 (Langenscheidt 1995) S.15

2） a.a.O. S.7, 10

3） a.a.O. S.10, 15

4） 「3　結び 57 頁」を参照。

5） Sibylle Bolton: Probleme der Leistungsmessungen — Lernfortschrittstests in der Grundstufe, Fernstudieneinheiten 10 (Langenscheidt 1996) S.95

6） a.a.O. S.95

7） ebd.

8） ebd.

9） ebd.

10） 大澤たか子「言語心理学的に見た外国語授業における — Übungen」（日本独文学会ドイツ語教育部会編『ドイツ語教育 I』90 頁）

11） 『明子といっしょに』（福沢，五十嵐，濱野共著，2001 年同学社）。なお，『わかって楽しいドイツ語（改訂版）』（2001 年三修社）も併用。昨年（2000 年）までは「ドイツ語 I」で週 3 回の授業ができたので，過去 7 年間『テーメン 1』を使用し，「ドイツ語 II」でも『テーメン 2』の第 6 課の途中（関係代名詞）までを扱ってきた。

12） 以下 3 つの小テキストを掲載する。担当は，Situation 1 と Situation 2 を非常勤講師の Arnold 氏が，Situation 3 を大塚がそれぞれ執筆し，3 つの小テキストに対する

注は大塚が作成した。

2001年ドイツ語I前期口頭試験準備資料

Situation 1 Familie［シチュエーション1　家族］

4 Gymnasiasten sprechen in der Schule über ihre Familien.

［4人のギムナジウムの生徒が学校で自分たちの家族について話している。］

Tobias: Anna, hast du Geschwister[1]?

Anna: Nein, ich bin ein Einzelkind[2]. Aber ich habe viele Freunde.

Katrin: Ich bin auch ein Einzelkind. Aber leider[3] habe ich nicht viele Freunde.

Daniel: Ich habe eine Schwester und einen Bruder. Und du Tobias?

Tobias: Ich habe nur eine Schwester. Sie ist 25 Jahre alt.

Anna: Wie alt sind deine Schwester und dein Bruder, Daniel?

Daniel: Meine Schwester ist erst[4] 15 Jahre alt, aber mein Bruder ist schon 24 Jahre alt.

Kartin: Ich habe keine Geschwister, aber ich spiele oft[5] Tennis mit meinem Vater.

Tobias: Wie alt ist dein Vater?

Kartin: Er ist noch jung[6], er ist erst 40 Jahre alt. Er ist Architekt[7].

Anne: Meine Mutter ist auch erst 40 Jahre alt. Sie ist Lehrerin[8].

Daniel: Mein Vater ist Bäcker[9]. Er hat eine Bäckerei[10]. Meine Mutter hilft[11] ihm.

【注】 1　兄弟姉妹（常に複数）　2　n一人っ子　3　残念ながら　4　やっと，ようやく　5　しばしば　6　若い　7　建築家　8　教師　9　パン屋（人）　10　パン屋（店，製作所）　11　j^3 helfen（助ける）j^3 は「人の3格」を目的語とすることを意味する。

Situation 2 Verabredung［シチュエーション2　約束］

Henry und Carlos sprechen uber das Wochenende. Da sehen sie Julie und Akiko und fragen, was die beiden Mädchen am Wochenende machen. Henry und Carlos überreden Julie und Akiko, gemeinsam an den See zu fahren.

［ヘンリーとカルロスは週末について話している。その時彼らはジュリーと明子を見かけ，二人が週末に何をするか尋ねる。ヘンリーとカルロスはジュリーと明子を一緒に湖へ行こうと説得する。］

H: Was machst du am Wochenende, Carlos?

C: Ich weiß[1] noch nicht.

H: Schau[2]! Da sind Akiko und Julie. Fragen[3] wir sie.

C: Hallo Akiko! Hallo Julie!
Was macht ihr am Qochenende?
A: Wir gehen in die Stadt[4] ins Kino[5].
J: Ja, und dann[6] gehen wir ins Restaurant und essen eine Pizza.
H: Aber am Wochenende ist doch[7] das Wetter sehr schön.
C: Fahrt ihr mit uns zusammen an den See[8]?
J: Ja, das ist eine gute Idee[9]. Wir machen am See[10] ein Picknick.
A: Und dann rudern[11] wir auf dem See[12].
J: Wann terffen[13] wir uns?
A: Am Samstag um 12 Uhr.

【注】 1 wissen「知っている」の ich に対する形。きわめて不規則。 2「見ろよ」「ご覧よ」。動詞 schauen〈見る〉の du に対する命令形。語幹だけでよい。 3「尋ねる，質問する」語順に注意。Fragen wir sie. のように「主語が wir のときに動詞が文頭に来ていれば〈提案表現〉になる」 4・5 in die Stadt「町へと」, ins (=in das) Kino「映画館へと」と〈in ＋ 4 格〉が二つ並んでいることに注意。ドイツ語では方向表現が続くことがよくある。 6（副詞）それから 7「でも週末にはお天気がとても良いんだけどなあ」doch は文中に来ると反発的感情を表すことがある。 8「湖畔へと」 9 良い考え 10 am (=an dem) See「湖畔で」(3 格である点に注意) 11 ボートをこぐ 12 湖上で（3 格である点に注意） 13「いつ会おうか？」treffen は j[4]［人の 4 格］を目的語として「～に会う」を意味し，この時主語と目的語が同一なら（ここでは wir ←→ uns）「お互いに会う」＝「約束して会う」の意味になる。でもこの説明はまだ分からなくても良い。単に「探求型の人」用に触れておきます。

Situation 3 Wir wollen nächste Woche in unsere Wohngemeinschaft umziehen.
［シチュエーション 3 僕らは来週僕らの WG（住居共同体）に引っ越すつもりです。］

Ute, Jochen, Petra und Stefan haben vor, in einer Wohnung zusammen zu wohnen. Sie können nächste Woche umziehen.
［ウーテ，ヨッヘン，ペートラ，シュテファンは，あるマンションで一緒に暮らす予定です。彼らは，来週引っ越すことができます。］

Petra: Nächste Woche[1] können[2] wir endlich[3] in unsere Wohnung einziehen[4].
Habt ihr schon alles[5]? Oder müsst[6] ihr noch etwas[7] kaufen?

Stefan: Ich brauche noch einen Schreibtisch[8] und eine Tischlampe[9]. Ich muss sie[10] noch kaufen. Und du, Jochen? Hast du schon[11] alles?

Jochen: Nein. Ich muss auch noch viel[12] kaufen. Ich habe kein Bücherregal[13], keine Kommode[14] und keinen Kleiderschrank[15].

Ute: Eine Kommode habe ich übrig[16]. Die[17] gebe[18] ich dir. Aber mein Kühlschrank[19] ist kaputt. Ich muss einen kaufen.

Petra: Nein, du musst[20] keinen kaufen. In der Wohnung steht[21] schon ein Kühlschrank. Aber wir müssen ein Sofa kaufen. Im Wohnzimmer brauchen[22] wir doch[23] eins[24].

Stefan: Du hast recht[25]. Dazu[26] brauchen wir auch einen Tisch. Da können wir ab und zu[27] eine Kaffeepause[28] machen.

Jochen: Gute Idee[29]! Aber jeder[30] muss als Miete[31] 380 DM zahlen[32]. Das ist etwas[33] teuer[34] für[35] mich.

Ute: Nein, das finde[36] ich nicht. Die Miete ist gar[37] nicht hoch[38]. Die Wohnung ist ganz schön groß[39]. Außerdem[40] ist sie sehr ruhig[41], obwohl[42] sie in der Stadtmitte[43] liegt[44].

Jochen: Da hast du recht[45]. Ziehen wir zuerst mal um[46]! Dann können wir wissen, ob[47] es teuer ist oder nicht.

【注】 1 「来週」。副詞として機能。熟語として覚えること。 2 「～できる」。「話法の助動詞」können の wir に対する形。 3 「ついに」(期待していた場合にのみ使う) 4 「引っ越す」 5 「全ての物を」 6 「～しなければならない」。「話法の助動詞」müssen の ihr に対する形。36 ページ等で体系的に学ぶ。7 「何かあるものが (を)」 8, 9, 13, 14, 15, 19, 24 は教科書 32 ページの語彙リストを参照のこと。 11 「すでに」 12 「多くの物を」 16 MD2 (33ページ) 17 die (Kommode)「その (タンス) を」。die が一種の省略記号の働きをしている。これを「指示代名詞」などという難しい名称で呼ぶこともある。 18 j³ et⁴ geben 人 (3 格) に物 (4 格) を与える 20 müssen の du に対する形。 21 「立っている」「置かれている」 22 「～を必要としている」 23 「(学生にはお金が無いとはいえ) それでもやっぱり」〈一種微妙な軽い反発感情を表す。なかなか訳しきれない。〉 25 「君が正しい。」「あなたが正しい」だったら, Sie haben recht. このまま覚えよう。 26 「そのためには」 27 「時々」「時には」熟語としてこのまま覚える。 28 「コーヒーブレーク」 29 「それはグッド・アイディアだ！」 30 「誰もが」 31 「家賃として」 32 「支払う」 33 「少々」(ここでは副詞) 34 「(値段が) 高い」 35 「(誰々) にとって」für は 4 格支配の前置詞 36 「～と思う」。Das finde ich

nicht.「僕はそうは思わない。」と文で覚えよう。「僕はそう思う。」は Das finde ich.「僕もそう思う」は Das finde ich auch.　37「全然（～ではない）」否定を強調する。　38「（レベル，高度等が）高い」　39「ずいぶん広々している」。直訳は「まったくすばらしく大きい」。　40「その上」（副詞）　41「静かな」42・43・44「町の中心部に位置しているにもかかわらず」obwohl（～であるにもかかわらず）は従属の接続詞で副文を導くので，定形 (liegt) は文末に来ている。45「その点は君の言う通りだ。」　46「まず引っ越そう。」zuerst mal「先ずもって」ziehen ..... um で「引っ越す」という意味になる。この 2 つに分かれるおかしな動詞は，第 8 課で学ぶ。　47「～かどうか」従属の接続詞。文末の oder nicht（「かどうか」）は意味上は無くても通じるが，口語ではよく使われる。

13）大塚作成。以下実物。

2001 年ドイツ語 I -1／ I -2 前期口頭試験キーワードメモ

【注】

1）文頭に来るものは頭文字を大文字にしてあります。ただし名詞の頭文字は常に大文字になる点にも留意してください。

2）主語が人称代名詞である場合には原則としてこれを削除してあります。

3）あくまでも目標はオリジナルのテキストを覚え，演じることであり，このキーワードメモはそのための手がかりに過ぎないことを忘れないでください。

4）評価のポイント：感じが出ている／すらすら言える／発音が正確である

Situation 1

Tobias: Anno, hast Geschwister?

Anna: Nein, ein Einzelkind / Aber habe viele Freunde

Katrin: auch ein Einzelkind / Aber leider nicht viele Freunde

Daniel: eine Schwester und einen Bruder / Und du Tobias?

Tobias: nur eine Schwester / 25 Jahre alt

Anna: Wie alt deine Schwester und dein Bruder, Daniel?

Daniel: Meine Schwester 15, aber mein Bruder schon 24

Karin: keine Geschwister, aber spiele oft Tennis mit meinem Vater

Tobial: Wie alt dein Vater?

Karin: noch jung, erst 40 / Architekt

Anna: Meine Mutter auch erst 40 / Lehrerin

Daniel: Mein Vater Bäcker / eine Bäckerei / Meine Mutter hilft ihm.

Situation 2

H: Was am Wochenende, Carlos?
C: noch nicht
H: Schau! Da Akiko und Julie / fragen sie
C: Hallo Akiko! Hallo Julie! / Was am Wochenende?
A: Wir in die Stadt ins Kino
J: dann ins Restaurant, eine Pizza
H: Aber am Wochenende, das Wetter sehr schön
C: ihr mit uns zusammen an den See?
J: Ja, eine gute Idee / machen am See ein Picknick
A: Und dann rudern auf dem See
J: Wann treffen?
A: Samstag, 12

Situation 3

Petra: Nächste Woche können endlich in Wohnung einziehen / Habt schon alles? Oder müsst noch etwas kaufen?
Stefan: brauche noch einen Schreibtisch und eine Tischlampe / muss sie noch kaufen / Jochen? Hast schon alles? /
Jochen: Nein / muss viel kaufen / kein Bücherregal, keine Kommode und keinen Kleiderschrank
Ute: Eine Kommode habe übrig / Die gebe dir / Aber mein Kühlschrankt kaputt / muss einen kaufen
Petra: Nein, musst keinen kaufen / In der Wohnung schon ein Kühlschrank / Aber müssen ein Sofa kaufen / Im Wohnzimmer eins
Stefan: Du recht / Dazu auch einen Tisch / Da können ab und zu eine Kaffeepause machen
Jochen: Gute Idee! / Aber jeder muss als Miete 380 DM zahlen. / teuer für mich
Ute: Nein, ich nicht / Die Miete gar nicht hoch / Die Wohnung ganz schön groß / Außerdem sehr ruhig, obwohl in der Stadtmitte liegt
Jochen: Da du recht / Ziehen wir um! / Dann wissen, ob teuer ist oder nicht

14) 自己紹介ヒント集

・Guten Tag.
・Ich heiße Eri Tamiya. / Mein Name ist Eri Tayama.
・Ich komme aus Sapporo.
・Ich wohne auch in Sapporo.

・Ich studiere Wirschaft / Handelswissenschaft / Jura / Informatik / Pädagogik / Englisch / Deutsch / Französisch /

・Ich bin neunzehn Jahre alt.

・Ich esse / mag sehr gern Sushi / Ramen / Sashimi / Jingiskan / Sukiyaki / Rindersteak / Rinderbraten / Schweinebraten / Bratfisch（焼き魚）Aber ich esse / mag keinen / keine / kein _____.（嫌いな食べ物）

・Ich trinke gern Wein / Bier / Sake / Schnaps / Kaffee / Tee / Uron-Tea. Aber ich mag keinen keine / kein _____.（嫌いな飲み物）

・Mein Hobby ist Lesen / Musik hören / Reisen / Fußball (Tennis, Tischtennis, Volleyball, Baseball, Golf) spielen / Judo (Karate, Aikido) machen / Wandern / Bergsteigen /

※二つ以上の趣味を挙げたいばあい：Meine Hobbys sind.....

・Wir sind drei Geschwister = Ich habe zwei Geschwister: Ich habe einen Bruder und eine Schwester.

・Wir sind zwei Geschwister. = Ich habe einen Bruder / eine Schwester.

兄弟が多い場合：Ich habe einen jüngeren Bruder / einen älteren Bruder.（弟／兄）/
Ich habe eine jüngere Schwester / eine ältere Schwester.（妹／姉）

※形容詞の格変化を学んでいないので当面は鵜呑みにしておくよう指示。

・一人っ子：Ich bin ein Einzelkind.（一人っ子）

・Mein Bruder ist Zweiundzwanzig Jahre alt. Er ist auch Student.
Aber er studiert Technik. / Mein Bruder / Meine Schwesetr ist sechzehn Jahre alt. Er / Sie ist noch Oberschüler / Oberschülerin（高校生の場合）/ Mein Bruder / Meine Schwester ist vierzehn Jahre alt. Er / Sie ist noch Mittelschüler / Mittelschülerin.（中学生の場合）

・Ich habe ein Auto / einen Wagen / ein Motorrad / eine Trompete. Ich bin stolz darauf.

・Am Wochenende gehe ich oft mit meinen Freunden / meinem Freund / meiner Freundin einkaufen. / schwimmen / ins Restaurant / in die Kneipe / zum Karaoke / in die Bibliothek.

・In den Sommerferien bleibe ich zu Haus / fahre ich mit meinen Freunden / meinem Freund / meiner Freund ins Ausland / jobbe ich bei_____.

15） DaF のテスト作成の困難さについてテスト研究の第一人者である Peter Doyé も「……どんなに知恵を絞ったやり方をしても絶対的な妥当性，信頼性，客観性を手に入れられることなどない……」(Peter Doyé: „Typologie der Testaufgaben für den Unterricht Deutsch als Fremdsprache“ 1992 Langenscherdt S.7) と述べているが，と

りわけこれは口頭試験にあてはまるだろう。ÖSD (Österreichisches Sprachdiplom) の評価の枠組みも Sprachen のものは Schreiben のものと並んで最も複雑である。

16) 口頭試験の準備を始めるに当たり，以下のような資料を配付して試験内容を詳しく説明した。

2001 年外国語コミュニケーション
前期テスト準備資料

試験種類：グループ別口頭試験

試験内容

1) 自己紹介の部（リレーインタヴュー式，全体で所要時間 5 分程度）

●質問事項 ① 名前 ② 出身地 ③ 居住地 ④ 年齢 ⑤ 家族 ⑥ 専攻 ⑦ 趣味 ⑧ 将来の夢とその理由

2) 演じる［6 つの演目から籤で引き当てたものを直ちに演じる。5 分程度］

●演目 ① 1. 何を食べるか客同士が話し合う（食べるものは事前に指定）

2. 支払い（指定されたものについて。その場で教師がウェーターを指名。メンバーは即座に自分の飲み食いした分の合計額とチップ込みの金額を計算しウェーター役に渡す）

② warum — weil ゲーム：授業とほぼ同じ資料を受け取り直ちにゲームを行う。時間内でいくつ正しく問答ができるか。

③ was macht, wenn ゲーム：② と同じやり方。

④ Was magst du ゲーム：食料品の資料（全員共通の，番号と性が明示されたもの）と好きな物と嫌いな物それぞれ 2 つが書かれたメモ（各自）を受け取り，決まった言い回しでリレーインタヴューを行う。速やかに進行した場合には同じやり方で第二ラウンドを行う。

⑤ Geschenk ゲーム：誕生日に家族の内の 2 人に何をプレゼントするかについて決まった言い回しによる問答をリレー式で行う。第 2 ラウンド用にもう 2 人の家族へのプレゼントも考えておく。家族だけで間に合わない場合に限り，友人へプレゼントすることも可とする。

⑥ 間違い電話ゲーム：授業で使用した間違い電話の会話（人の名はそのままにし電話番号は変える。Dialog を 10 個にする）を順番に行う。順番は A→B，B→C，C→D，D→A。A～D はグループのメンバーを示す。

17) 『Themen neu 1』付属のゲーム風練習教材集 “Themen neu 1, Spiele, Bilder, Vorlagen zum Kopieren” の練習 15 (S.22) のメニューに基づき，また以下の資料を使って 2 つの場面を演じる。

※ 課題：先ず各自メニューを見ながら自分の分を計算し資料中の !! の箇所に記入。次にパターンに従って，1) 自分が食べたいものを述べ合う，2) 支払う（ウェーター

は教師が指名する。)，の２場面を簡単に演じる。

資料　IM RESTAURANT

Gast 1	: Pizza Carzone（カルツォーネ） 1 Weiswein 1 Espresso Kirschbecher mit Vanilleeis _____ zusammen !! Preis + Trinkgeld _____ !!
Gast 2	: Pizza Rustika（ルスティカ） 1 Mineralwasser 1 Cappuccino Gemischtes Eis _____ zusammen !! Preis + Trinkgeld _____ !!

（以下省略）

1）○ Was nimmst du?

● Ich nehme Pizza _____ und _____.

Als Nachtisch nehme ich _____ und _____.

Was nimmst du?

□ Ich nehme .....

Was nimmst du?

■ Ich nehme .....

Was nimmst du?

○ Ich nehme .....

2）支払い場面（ウェーターないしウェートレスは◆）

◆ Was bezahlen Sie?

○ Ich bezahle.....

◆ Das macht _____ DM.

○ ..... DM. Stimmt so!

◆ Vielen Dank!

18）Wchselspiel (1986 Langenscheidt Verlag) 練習26 (S.68-69) 。Redemittel を次のように変えた。

Redemittel: ○ Warum hat Schrader kein Geld?

□ Weil er arbeitslos ist.

○ Also, er hat kein Geld, weil er aubeitslos ist.

19) Wchselspiel 練習 26 (S.68-69) 。Redemittel を次のように変えた。

Redemittel: ○ Was macht Herr Löwenherz, wenn er Zeit hat?

□ Dann strickt er.

○ Also, er strickt, wenn er Zeit hat.

20) "Themen neu 1, Spiele, Bilder, Vorlagen zun Kopieren" 練習 12a と 12b (S.18-19) をハサミ・ノリで改造。次のような簡単な Redemittel を用いた。

Redemittel: ○ Was magst du?

□ Ich mag _____ und _____ .

○ Und was magst du nicht?

□ Ich mag kein Bier und keinen Käse.

21) Wchselspiel 練習 14 (S.44-45) の応用練習。Redemittel を変えた。

Redemittel: ○ Schenkst du deiner Familie etwas zun Geburtstag?

□ Ja. Meinem Vater schenke ich eine Pfeife und meiner Mutter schenke ich eine Bluse.

22) Themen neu 1, Lektion 1 Übung 9 (S.12) から。以下の通り電話番号はすっかり変え，Dialog を 10 個に増やした。Redemittel は変えていない。

Redemittel: ○ Kaufmann. □ Wer ist da bitte?

○ Kaufmann. □ Ist da nicht Gräfinger? 32 36 20?

○ Nein, hier ist 32 66 20. □ Oh, Entschuldigung!

○ Macht nichts.

23) Sibylle Bolton: a.a.O. S.93